

琉球大学学術リポジトリ

シロガシラによる露地野菜の被害と防止対策 7. 台湾西地方におけるシロガシラの分布と被害

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): シロガシラ, 野菜被害, 群れ, 鳥害, 分布, 台湾 キーワード (En): Chinese bulbul, Pycnonotus sinensis 作成者: 外間, 数男, 村上, 昭人, Hokama, Kazuo, Murakami, Akito メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015684

シロガシラによる露地野菜の被害と防止対策

7. 台湾西地域におけるシロガシラの分布と被害

外間 数男¹⁾・村上 昭人²⁾

(¹⁾元沖縄県農業研究センター名護支所, ²⁾沖縄県病害虫防除技術センター)

Kazuo HOKAMA and Akito MURAKAMI: Damage to vegetable crops in open field caused by the Chinese bulbul, *Pycnonotus sinensis*, and its countermeasures.

7. Prevalence of the damage to vegetables caused by the Chinese bulbul in west part of Taiwan.

はじめに

シロガシラ *Pycnonotus sinensis* は中国南部、ベトナム、台湾、沖縄に分布する (Mackinnon and Phillips, 2000; 清棲, 1980; 内田, 1927; 内田・島崎, 1987). 分布域から, *P. s. sinensis*, *P. s. hoyi*, *P. s. hainanus*, *P. s. formosa*, *P. s. orii* の5亜種が知られている. *P. s. sinensis* は中国東部に分布し, *P. s. hoyi* は中国中部から西部, *P. s. hainanus* は南部, *P. s. formosa* は台湾, *P. s. orii* は南部琉球にそれぞれ分布する (山崎, 2003). しかし形態形質から *P. s. hoyi* と *P. s. orii* は基亜種のシノニムであり, *P. s. sinensis*, *P. s. hainanus*, *P. s. formosa* の3亜種が妥当と報告されている (山崎, 2003). *P. s. formosa* はタイワンシロガシラ (金城ら, 1987), *P. s. orii* はヤエヤマシロガシラ (黒田, 1930, 清棲, 1980) と呼ばれ, 沖縄島に分布するシロガシラは台湾のシロガシラに近いらしい (藤岡・中村, 2000).

シロガシラによる農作物被害は中国、台湾で報告されず、また八重山諸島に分布するヤエヤマシロガシラも被害報告がみられない (金城ら, 1994; 藤岡・中村, 2000). しかし清棲 (1980) はヤエヤマシロガシラが果樹園、農耕地にむれ、

漿果類をむさぼることを記し、台湾省発刊農作物加害鳥類 (国立屏東科技大學, 1997) にはシロガシラが含まれ、台湾北部の新竹県内湾では群れによる葉菜類の加害が目撃されたことから、シロガシラは台湾でも農作物の加害鳥として認識されるものである. しかし被害程度は地域で異なり、害鳥としての位置づけに地域間差異があると思われる. そこで台湾西側地域におけるシロガシラの分布と被害を調査し、加害の地域性について検討したので、その概要を報告する.

調査方法

1. 調査地点

調査地点は図1に示したが、一斉調査が難しいことから適宜調査とした. 調査は2000年12月29日に台南市, 2001年1月1日に新竹県内湾, 2001年5月3日南投県日月潭, 2005年12月30日屏東県墾丁, 同31日彰化県鹿港, 2006年1月1日新竹県内湾, 同2日に台北市士林区で行った.

2. 調査方法

調査は地域内を無作為で歩きながら目撃および鳴き声で個体識別し、分布を確認した. 調査コースは特に定めなかった. 被害調査は群れ形

成地域で行い、個体数および被害程度を調査した。

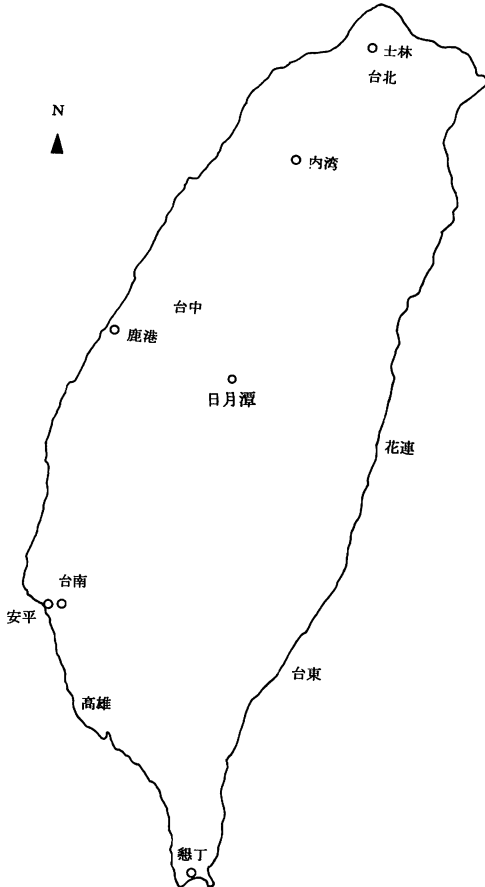


図1. 台湾におけるシロガシラの分布調査場所。

結果

1. 分布の確認

シロガシラの分布は台北市士林区、新竹県内湾、南投県日月潭、彰化県鹿港、台南市、屏東県墾丁で確認された。台北市士林では故宮博物院の隣接公園で午前9時頃樹上で単独行動している5羽を目撃した。確認時間帯および地域が接近していることから群れ行動・集団と思われた。

新竹県内湾は、頭前溪をさかのぼり標高約

650mの山間に位置し、周囲山に囲まれて町並みが形成されている。溪谷沿いおよび住宅地の外周には菜園が散らばっているが、住宅地に接近した菜園で2001年1月14時頃群れをなした加害中の9羽を確認した。また2006年1月にも11時頃住宅近在の菜園で加害中の5羽を確認した。

南投県の景勝地・日月潭では、10時頃市街地内の街路樹で1羽を確認した。また彰化県鹿港では市内住宅地の電線上に11時頃2羽と1羽を近接した地域で確認し、台南では公園（中山公園）の樹上に13時頃、および近接する住宅屋根のアンテナに14時頃各1羽が目撃された。16時頃には安平の台湾開拓資料館内にあるブーゲンビリア樹上に4羽を確認した。屏東県の墾丁公園内では9時頃樹上で2羽が目撃された。

2. 野菜の被害

シロガシラによる農作物加害は新竹県内湾のみに確認された。2001年1月1日調査では、調査時に9羽が群れをなして葉菜類を加害していたが、ブロッコリーとレタスに加害がみられ、キャベツ、シュンギクでは確認されなかった（写真1）。加害程度は低く、ブロッコリーで加



写真1. シロガシラによる被害のあった菜園（内湾）ブロッコリーが集団加害。

害株株率が44.7%、レタス26.6%であった。ま

た2006年1月1日にはブロッコリーとエンドウで確認され、それぞれ14.4%と16.7%の被害株率であった。キャベツや白菜には加害痕跡がみられなかった(表1)。

表1. 内湾におけるシロガシラによる野菜の被害状況.

作物名	2001年1月	2006年1月
ブロッコリー	34/76 (44.7%)	16/111 (14.4%)
キャベツ	0/20	0/25
レタス	8/30 (26.6%)	
シュンギク	0/18	
ハクサイ		0/32
エンドウ		6/36 (16.7%)

*被害株数/調査株数

加害はブロッコリーで外葉がつつかれ穴だらけになり、レタスの外葉やエンドウのつる先の若葉が食害されていた(写真2)。加害痕は沖

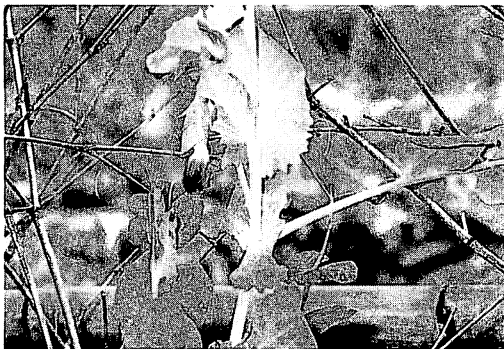


写真2. シロガシラによるエンドウの被害葉(内湾) 葉緑の加害痕.

縄における野菜の被害に類似するものであった。しかし被害は確認されたが、防鳥対策などを施した様子はなかった。

考察

台湾ではシロガシラが台北、北投、新竹、台

中、埔里、集集、台南、嘉義、高雄に分布する(清棲, 1980, 内田, 1927)。シロガシラによる農作物加害は不明であるが、トマトやナス、イチゴ、エンドウ、キュウリなどに被害がみられる(国立屏東科技大學, 1997)。今回限られた範囲で短期間でもあり、また時間的に、地域的に連続性のない調査ではあったが、分布の様子と被害程度を知ることができた。

シロガシラは台湾西側地域で広くみられる留鳥であり、農耕地および市街地でもみることができる。市街地では公園や街路樹、電線上で目撃され、また農耕地では集団で加害することも沖縄に分布する系統に類似する。今回確認した群れ数は10羽以下であったが、100羽規模にもなることから(金城ら, 1994)、集団による農作物加害も考えられる。シロガシラの群れは台湾北部の新竹県内湾のみであり、また台北市士林でも類似行動がみられたが、台中市以南では単独か又はつがいであった。

台湾北部の冬季期間は20℃以下が4ヶ月以上も続くが、台中以南は1~2ヶ月程度にすぎず、また平均気温も高い。沖縄でのシロガシラによる農作物加害は冬期低温期に限られ、気温が上昇する4月以降からみられなくなる(外間・村上, 2000, 2005)。台湾北部と沖縄の冬期の気温はほぼ同じであり、群れ形成があれば加害活動も推測される。

シロガシラは秋口から群れ形成し、気温の低下とともに農作物への加害が増加し、厳寒期に多発する(外間・村上, 2000, 2005)。シロガシラによる農作物加害は、野生の採餌動植物の多寡に影響されるが、群れ形成や加害行動は気温にも影響されると思われる(外間・村上, 2006)。

今回の限られた調査内ではあるが、シロガシラによる農作物加害が台湾北部で普遍的にみられ、南部地域では少ないか、または問題になら

ないものと推測される。冬期20℃を下らない南部地域では、一時的な群れ形成があっても、継続することなしに繁殖期をむかえ、単独、つがい行動になり、農作物加害にいたらないと推測される。しかし今後の詳細な調査で、台湾におけるシロガシラの群れ行動や加害の地域性が明らかにされるものと思われる。

引用文献

- 1) 藤岡正博・中村和雄. 2000. 鳥害の防ぎ方. (社)家の光協会.
- 2) 外間数男・村上昭人. 2000. シロガシラによる露地野菜の被害と防止対策3. シロガシラ個体数変動と加害の消長. 沖縄農業34-2: 34-39.
- 3) 外間数男・村上昭人. 2005. シロガシラによる露地野菜の被害と防止対策4. シロガシラによるレタスの被害消長. 沖縄農業39-1: 59-63.
- 4) 外間数男・村上昭人. 2006. シロガシラによる露地野菜の被害と防止対策6. 辺境域におけるシロガシラ個体数の季節的変動. 沖縄農業40: 51-58.
- 5) 国立屏東科技大學野生動物保護學系編集. 1997. 野鳥-危害農作物. 台灣省政府農林廳.
- 6) 金城常雄・西村真・中村和雄. 1987. 沖縄本島におけるシロガシラの侵入と被害の状況. 植物防疫41巻22-25.
- 7) 金城常雄・瑞慶山浩・仲宗根福則. 1994. 沖縄本島におけるシロガシラの採餌習性と生活環. 九州病害虫研究会報40: 126-129.
- 8) 黒田長禮. 1930. 石垣島産シロガシラの一亜種に於て. 鳥29号: 269-275.
- 9) 清棲幸保. 1980. 日本鳥類大図鑑I. 講談社: 272-273.
- 10) Mackinnon J. and K. Phillips 2000. A field guide to the birds of China. Oxford University Press.
- 11) 内田清一郎・島崎三郎. 1987. 鳥類学名辞典. 東京大学出版会.
- 12) 内田清之助. 1927. 日本鳥類図説・續編. 警醒社書店(東京).
- 13) 山崎剛史. 2003. 東アジア産シロガシラ *Pycnonotus sinensis* (鳥綱スズメ目) の分類学的再検討. 日本動物分類学会第39回大会講演要旨.